

I 本日の「しかし」という接続詞は、非常に大切な言葉。

4：1-6までの教会の一致の問題と繋がっている。

「平和のきすなで結ばれて御霊の一致を熱心に保ちなさい」：3と強く命じられた。

本日の御言葉は、教会の「一致」を間違った意味で捉えない為。

主にある一致とは、みな画一的（個性を失くし皆同じになる、同じ部品の様になる）なものではない。

それは、神が願われる一致ではない。画一的一致は、それぞれの豊かさを失う。

神が生み出される一致は、もっと豊かで生氣あるもの、素晴らしいもの。

4-6節で、「一つである」ことが、7（聖書の完全数）回も強調された。

と同時に、本日の7節では「しかし、私たちひとりひとり」と言われている。

※日本の為に祈りたい。国の指導者により、子供たちを教育する教科書や報道が規制され、

画一化され、間違った方向に行かないように。7節の「私たちひとりひとり」と教会の一致は

矛盾しない。私達は、強い強制力で、一人一人の個性を奪うような集団に吸収されてしまったわけ

ではない。私達は、主にある自分というものを失ってはならない。みな、神からそれぞれの違い、

個性、気質、能力、可能性が与えられている。各自は、神が造られた大切な一個の独立した人格。

本当に驚くべき事であるが、私達は、主にあって「一つ」であると同時に、「私たちはひとりひとり」

である。私達の主による救い、聖霊なる神による新生は、みな同じ神による奇跡の御業。

父、子、聖霊なる神により、私達は一致が与えられている。

しかし、この一致は、個人個人がすべての面で同じという意味ではない。

神は一致の中に多様性を与えておられる。多様性の中の一致。一致の中に豊かな多様性があるところ

に神が造られた各教会の素晴らしさがある。I コリント12章で教えられているように、神が造られ

た人間の体の一体性と多様な器官があり、相補っている素晴らしさ。違いは、さばいたり、争ったり、

ねたみ、競争する為ではなく、協力して神の教会を建て上げる為に神から与えられている。

多様性は一致を壊さず、一致は多様性を失わせない。これこそ、主に救われた者の集まりである教会

が持つ恵みの固有の素晴らしさ、救いの奇跡。これを世に明らかにし、示す事ができるのは神の教会

だけ。皆、違っている人が集められた教会の一致は、神の奇跡。

II 「私たちはひとりひとり、キリストの量りに従って恵みを与えられました」：7。

主キリストご自身が、教会のかしらであり、様々な賜物の与え主。これが教会を支配する原則。

それぞれ違った賜物を、教会の全員が主から受ける。ここにこそ、多様性の中に一致がある事の保証

がある。

1. 「キリストの量りに従って」与えられる賜物＝能力、性格、時間、年齢、経験。他の人と比較し、  
優越感や劣等感を持つ事は無意味。主が、それぞれに相応しい賜物を与えておられる。

2. 主が私達皆にそれぞれに相応しい賜物、奉仕、仕事の為の能力を与えておられる目的。

①あふれる恵みを与えられている神を愛し、神の栄光を現わす為。

②祈りつつ相応しい奉仕を皆と協力しつつする事により神の教会を建て上げる。

③世の罪と調子を合わせるのではなく、世の人に仕え、仕事、奉仕、振る舞いで主を証しし、

神の栄光を現わす。

3. 自分に主が与えておられる賜物、能力、仕事を発見する為には。

i 神のあふれる恵みに感謝して、自分の体、動機を神に奉げる。ローマ12：1。

奉仕の前に、この命令が来ている深い意味。奉仕が自己実現や自己満足ではなく、神の栄光と神の教会を共に建て上げ、仕え合うものであるため。

ii 障害物、聖霊の働きを邪魔する自分の罪を悔い改める。Iヨハネ1：9。主に頼り、罪の赦しだけではなく、悪習からの解放を祈り求める。信頼出来る人に祈ってもらおう。祈り合う事は力。

iii 主が自分に与えられている能力、長所は何かを祈り求め確認する。人と接する事が裏方で事務をやる事か。指導する事か、指導者を支える事か。自然研究か、医療、福祉、芸術か。会社か。伝道者、宣教師か。若い人は、そのような事を総合的に考え、進路を祈り求める。

iv 若いうちは、色々やってみる。それにより、主が自分に与えられている賜物、能力、主がさせようとしておられる事が、分かって来る。御心を祈り続ける。神は、私達に目的と計画を持っておられる！

v 年齢を重ねると、若い時出来ていたものが、体力面で、出来なくなる事が増える。

その時、大切な事は、出来ない事を嘆くのではなく、まだ、できることを主が与えておられる事を感謝して実践する事。他の人の為に祈る奉仕は、いくつになってもできる最高の奉仕である。表に出ている奉仕は、陰で多くの人に祈られているおかげである事を決して忘れてはならない。感謝！

vi 賜物による奉仕で大切な心は、「奉仕をしてやってやる」という高ぶりの心ではなく、

「奉仕をさせていただいて感謝」という感謝と謙遜な心が大切。

感謝と謙遜、仕え合う心の奉仕は神の教会を建て上げる。その人自身も成長する。

高ぶりの奉仕は、人をさばき、教会の一致を壊す。vii 体調を崩し、奉仕が負担に感じる時、相談していただきたい。主は弟子たちに言われた。「しばらく休みなさい」マルコ6：31。

奉仕を始めるのに時があり、休むのに時がある。また逆に、やりたい奉仕の志が与えられたら主の御心を祈りましょう。始めるのに時がある。

III 主が量り与えて下さる賜物、能力には色々なものがある。

1. 聞く。ヤコブ1：19。 2. 教える。ローマ12：7。 3. 励まし。 4. 慰め。

5. 修理。 6. 事務。 7. 食事作り。 8. 整頓。 9. お花。 10. とりなしの祈り。

11. 機械関係。 12. 他の人の良さを引き出し、与えられているものを生かし結び合せ教会を建て上げる。 13. 芸術、音楽、賛美。 14. 色々な経験。 15. 痛み、苦しみ→他の人を思いやる。

「それぞれが賜物を受けているのですから、神のさまざまな恵みの良い管理者として、その賜物を用いて、互いに仕え合いなさい」Iペテロ4：10。多様性と仕え合う一致。感謝！